

平成27年度農業後継者特別支援事業
(2段階育苗育苗技術の実証)

事業主体名 県立農業大学校 農学部 野菜科

1 目的

本県のいちご(さがほのか)の全県平均単収は、3t/10a前後と依然として低い。しかしながら、佐賀県の一部の地域では平均単収5t/10aと高い収量を上げている。この地域の技術(2段階育苗及び不耕起栽培)を導入した出水の農家(過去最高5t/10a)が取り組み2年目で平成26年度産単収が6.7t/10aの実績を納めた。

そこで、本年度は農大でも高単収をめざしてこの技術を導入し、栽培のキーポイントである2段階育苗技術の実証を行う。

2 実施状況

(1) 太陽熱消毒の実施

ア 実施期間

平成27年7月30日～9月15日(46日間)

ウ 成果

目標は2ヶ月以上行う予定であったが、46日間であった。一部炭疽病が発生したものの効果は十分であった。

(2) 2段階育苗の実施

ア 親株定植及び鉢受け

(ア) 2次親定植 平成27年5月25日

(イ) 鉢受け 平成27年6月20日～8月5日

(エ) 切り離し 9月1日

イ 施肥量

(ア) 基肥(親株) エコロングトータル5g/株

(イ) 追肥(子苗) OKF1を2,000倍で8月25日から週1回かん注

ウ かん水

(ア) 親株 毎日かん水

(イ) 子苗 平成27年8月24日から毎日かん水

エ 成果

(ア) 生育経過

8月25日に台風被害にあったものの、病害虫被害も少なく、おおむね順調に生育した。

(イ) 生育調査

数値比較にはできなかったが、葉長・葉幅は2段階育苗区が大きく推移した。また、草丈尺を設置して目視で観察できるようにしたが、11月末で22～23cm、12月末で28cm、2月上旬で32cmと確保できた。2月以降はやや徒長して35～38cmくらいになった。

(ウ) 収量

今年度産は作りにくい年であったが、3月末単収は産地平均と比較しても、見劣りしない結果を出すことができた。



写真1 2次親から鉢受け



写真2 台風15号の被害



写真3 2番果の着果状況

3 次年度の課題, 取り組み

(1) 台風被害を受けない丈夫なハウスでの育苗

(2) 不耕起栽培前年の畦立て後は、土を締めるかん水が重要

(3) 不耕起栽培の実証